

DF 講演会・・・講師:映画監督・雑賀俊朗

「映画エンターテインメントとベンチャーと地方創生(仮)」

映画は、資本主義の原点だ！ ～大島渚(映画監督)～

<前半>

映画作りは、ベンチャー企業を立ち上げるのに似ている！

映画作りの過程を、ベンチャー企業立ち上げと比較しながら解説。

映画は、ただのエンターテインメントだけではなく、

たくさんの方が関わる、ビジネスプロジェクトでもある。

(映画企画)―(企業理念) ⇒ (台本制作)―(商品開発)

(資金集め)―(投資家募集)⇒(キャスト&スタッフ集め)―(組織作り)

(撮影)―(商品製造)⇒(宣伝)―(販促)⇒(上映興行)―(販売)

<後半>

映画で地方創生をしよう！

映画は、地元活性や地方PRに効果的なコンテンツである。

現在、高齢化や少子化やUターン減少で、地方のパワーが弱って来ている。

自分たちの力で、地方を全国や世界にPRしたいが、

経済的やマンパワーやアイデアが足りない。

それと同時に、それを何とかしたい地元愛に溢れる個人や企業が増えていて、

ふるさと納税等などは活発化している。地元を活発化させ、地元の魅力を上

手く発進できないか？映画と地方創生の実績と未来を考える！

「映画と地方のコラボメリット」

①「地元活性化」・・・地元の行政や企業と連動し、ロケ地や市民のEX参加。

地元愛を一つにまとめやすい。

②「経済効果伝」・・・キャストやスタッフ宿泊。メディア発信。

③「映像遺産効果」・・・近い未来に無くなっていく由緒ある施設や地元の人たちも気づかない自然や物産を永遠的に映像に残す事が出来る。

④「宣伝効果」・・・キャストを前面に出し、全国に宣伝活動。CMと同じ効果

海外映画祭に出品で、世界にも発信！メディアの取材多数。

⑤「レガシー効果」・・・上映興行だけではなく、その後のレガシーとしての効果

巡礼地(ロケ地)観光・海外への配信・上映・機内上映